

1 研究主題，研究内容・方法等について

(1) 研究主題

主体的・協働的に学び，持続可能な社会を創ろうとする子供の育成
～個人探究と表現の場を充実させるカリキュラム作りを通して～

(2) 主題設定の理由

現行の学習指導要領では，知識や理解を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現が目指され，「何ができるようになるか」のために「どのように学ぶか」を明確にすることの重要性が示されている。また，資質・能力を汎用的なものにするために，学びを各教科でとどめるのではなく，教育課程全体を視野に入れた横断的な学習の大切さが示され，カリキュラムの検討・改善が必要とされている。その際，カリキュラムを見直す中で，生活科と総合的な学習の時間は中核となる存在として位置付けられている。本校は，平成元年に，文部科学省(当時 文部省)から研究開発校の指定を受け，生活科の研究を進めてきた。その流れを汲み，平成23年度から，特色ある吉川地域を「まるごと学びのステージ」として，生活科・総合的な学習の時間を中心に研究を進めてきている。さらに近年は，SDGs・ESDの視点を教育課程全体に取り入れ，地域の課題とより広い社会や世界とのつながりを感じられるよう，教育課程を見直し相互の関連を図っている。

昨年度まで，前述した本校の特色でもある，地域との密接なつながりやSDGs・ESDの視点を取り入れた教育課程を生かし，地域の中から課題を見付け，ゴールを明確にした単元開発を進めてきた。また，近年は新しく「個人探究」の時間をカリキュラムの中に位置づけ，児童個々の興味・関心に応じて情報収集や表現ができるようにした。さらに，カリキュラムの中に，目的意識・相手意識を明確にした「表現の場」を設定した。こうした取組により，自ら課題を見付け，課題の解決に向けて学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む「主体性」や自らの学習を相手や目的に応じて伝える「表現力」が伸びたと実感する児童が増えた。一方，本校に長年受け継がれてきたカリキュラムが固定化していることによる学習の停滞や，ICTの活用を始めとした多様な表現方法の指導の在り方についてが課題として挙がった。

以上のことから，今年度も引き続きSDGsの視点を取り入れたカリキュラムを，生活科や総合的な学習の時間を中心に設定することで，主体的・協働的に学び，持続可能な社会の担い手としての資質・能力を意識して研究を進めていく。これまでと同様，児童個々の興味・関心に応じて情報収集や表現ができるよう「個人探究」の時間と，相手意識・目的意識を明確にした「表現の場」をカリキュラムの中に位置づけていくことで「個別最適な学び」の具現化を図っていく。そのために，これまで以上に学びが深まっていくよう，児童の実態に応じた新たなゴールの設定や地域の新たな企業や人材との連携なども含めて，カリキュラムを見直していく。また，調べ学習や探究の記録，学習の成果の発表などがより効果的に行えるよう，国語科等の他教科とも関連させながら，表現スキルの指導を取り入れていく。

これらのことが，未知の状況においても課題解決に向けて主体的・協働的に学びを進めることのできる，持続可能な社会の担い手となる児童の育成につながると考え，本主題を設定した。

(3) 研究仮説

SDGs の視点を取り入れた生活科・総合的な学習の時間において，児童個人による探究と表現の場および表現スキルの指導を取り入れたカリキュラム作りの工夫を図れば，主体的・協働的に学び合い，持続可能な社会の担い手となる児童を育成することができるであろう。

(4) 研究内容

- 1 「個別最適な学び」の視点を取り入れた課題発見・解決型のカリキュラムの見直し
- 2 相手や目的を明確にした表現の場の設定および表現スキルの指導を取り入れた単元構成や授業づくり

(5) 検証の指標

	検証の視点	方法	検証の指標	達成目標
① 「個別最適な学び」の視点を取り入れた課題発見・解決型のカリキュラムの見直し	地域を題材とし，ゴールを明確にした単元開発及び個人探究の充実により，児童が自ら課題を設定し，課題の解決に向けて取り組むことができたか。	児童・教師アンケート	児童・教師アンケートの肯定的評価（4段階評定）	2.8以上
		授業評価票	教師の肯定的評価（4段階評定）	2.8以上
② 相手や目的を明確にした表現の場の設定および表現スキルの指導を取り入れた単元構成や授業づくり	相手意識や目的意識を明確にした表現の場，表現スキルの指導をカリキュラムに取り入れることで，児童が，相手や目的に応じて自分の考えを表現することができたか。	児童・教師アンケート	児童，教師アンケートの肯定的評価（4段階評定）	2.8以上
		発表の様子・制作物	発表や制作物の内容	相手や目的に応じて，自分の考えを表現する内容があること。

学校教育目標

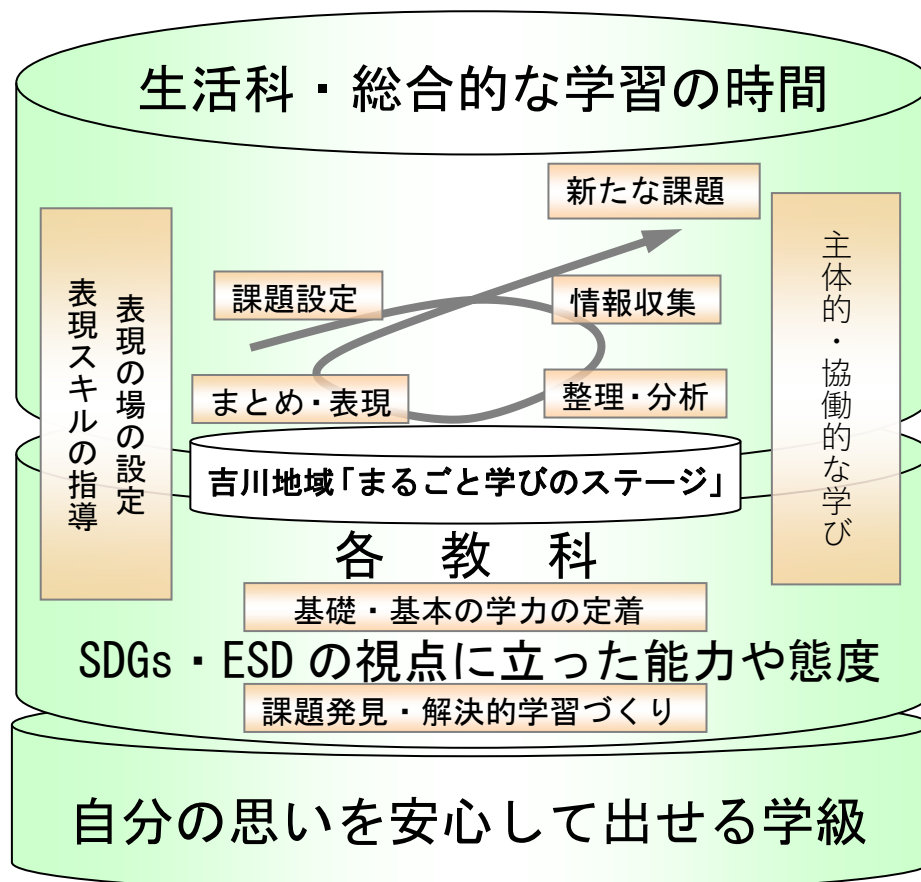
強く 正しく うるおいのある子供の育成
～一人一人に生きてはたらく力を育てる～



目指す子供像	『吉川を創る子供』
☆強い子	ねばり強い子
☆正しい子	正しいことが言える・できる子
☆うるおいのある子	互いの良さや違いを認められる子



主体的・協働的に学び、
持続可能な社会を創ろうとする子供の育成
～個人探究と ICT を活用した表現の場を充実させるカリキュラム作りを通して～



3 校内研修計画

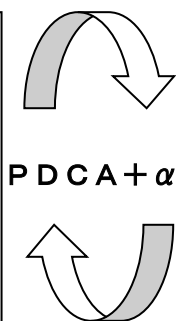
①研究計画

- ・ 昨年度までの研究の成果や課題，文部科学省「小学校学習指導要領」（平成 29 年告示），広島県教育委員会「令和 5 年度広島県教育資料」や国立教育政策研究所の E S D に関する資料やユネスコスクールに関する資料，「令和の日本型学校教育」（中央教育審議会答申），授業改善のための参考資料などの情報を基に，今年度の研究の重点を絞り，研究仮説・検証の視点・達成目標を明確にもつ。
- ・ 理論構築に当たっては，これまでの実践を踏まえながら，外部講師及び東広島市教育委員会との連携を図り，指導・助言をいただくとともに，先行研究を行っている学校視察及び書籍等を活用し，研修部等で吟味する。



②研究授業による検証

研究主題の具現化に向け，研修部で提案した研究理論に基づいた指導案の作成・検討（事前研修）を行い，検証のねらいや指導方法の工夫について吟味する。



- ・ 授業での検証の視点を明確にし，その視点にそって授業が行われたかを検証する。
- ・ 授業後は，協議会を設け，指導方法の妥当性や児童への効果を明らかにする。協議会では，教職員が積極的に参加できるようにワークショップ型の協議を取り入れ，校内研修の活性化を図る。また，出た課題を次の実践に活かし改善する。



③研究の評価

- ・ 研究授業を行い，比治山女子大学 上之園公子教授，広島県教育委員会指導主事，東広島市教育委員会指導主事等から指導・助言を受ける。
- ・ 研究授業観察票によって，授業を観る力，分析する力を高めるとともに，次への課題を明確にする。
- ・ 児童アンケート，教師アンケートを実施し，事前事後で児童に付いた力を分析する。



④研究のまとめ

- ・ 研究実践は，仮説に基づいて授業を実践し，検証の視点に沿って結果を分析する。
- ・ 今年度の成果と課題を明確にし，次年度の研究の方向性を検討してその方向性を示す。

4 研究公開の予定について

研究公開の予定はありません。